

2007年11月14日

受益者の皆様へ

安田投信投資顧問株式会社

チャイナ・リアル・ウォッチの基準価額下落について

11月12日の中国関連株式市場が大幅に下落したことより、「チャイナ・リアル・ウォッチ」の11月13日の基準価額が前日比5%を超える値下がりとなりましたので、その状況のご報告と、本ファンドの再委託先である国泰君安アセット（アジア）の見解をご紹介します。

ファンド名	基準価額（11月13日）	前日比
チャイナ・リアル・ウォッチ	22,274円	1,381円（ 5.84%）

<背景>

週明け12日の中国関連株式市場は急落し、指標となる指数はほぼ3ヶ月ぶりの大幅な下げとなりました。香港市場のインデックスの下落率は、H株指数が対前日比 5.91%、レッドチップ指数が同 5.73%となりました。中国株価下落の発端は、先週、中国の温家宝首相が中国の個人投資家の香港株への直接投資の早期解禁について否定的な発言をしたこと、11月10日に中国人民銀行が景気沈静化を目指し、今年9回目の預金準備率引き上げに踏み切ったことにより貸し出しの抑制につながるのではないかと懸念、また複数の銀行が米サブプライム住宅ローン関連の損失の拡大を発表するとの見方が広がったこと等が背景と考えられます。

<今後の見通し>

先週、温家宝首相は、中国の個人投資家の香港株への直接投資を解禁する前に、個人投資家の知識の向上、香港や中国の株式市場を保護する為の規制の準備やリスク調査の必要性があると発言しました。市場はこれらの発言を、8月以降の株式市場の急騰を受けての利益確定のための売りの理由として、過剰に反応したものと見ております。香港株式市場に関しましても、短期的に不安定な動きが続く可能性はあろうかと思われませんが、中国経済のファンダメンタルズには大きな変化はなく、今後も中国経済は堅調に推移するとみており、中長期的には株式市場も経済成長と同様に堅調に推移するものと思われれます。

以上

* 当資料に記載されているコメント、投資環境見通しについては、過去の実績等に基づいたもので、将来の投資成果等を保証するものではありません。* 当資料はご参考資料として、安田投信投資顧問が作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。取得の申込みにあたっては、販売会社を通じてあらかじめまたは同時に投資信託説明書（交付目論見書）、契約締結前交付書面等（目論見書補完書面を含む。）をお渡ししますので、内容を十分にご確認のうえ、ご自身でご判断ください。* 当資料は、信頼できる情報源から得た情報に基づき構成されていますが、内容の正確性あるいは完全性について明示、黙示に関らずこれを表明あるいは保証するものではありません。